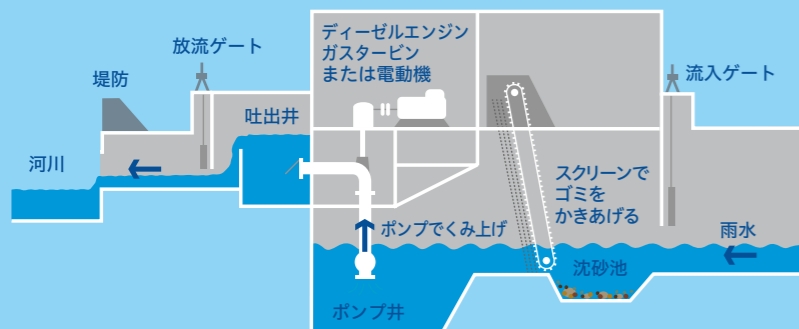


豪雨・台風 シーズン到来！

# 雨水のあれこれ

近年、局所的な集中豪雨(ゲリラ豪雨)等により全国各地で浸水被害が発生しています。加古川市では浸水被害から市民の皆さまの生命と財産を守るため、さまざまな対策を進めています。今回は「ながす」対策と「ためる」対策の一部をご紹介します。

実は、皆さんの身近な場所でも雨水対策を進めています！



写真：西脇雨水ポンプ場内部(別府町西脇) 雨水揚水能力1,143 m<sup>3</sup>/分

## File 2 雨水ポンプ場の整備でながす対策

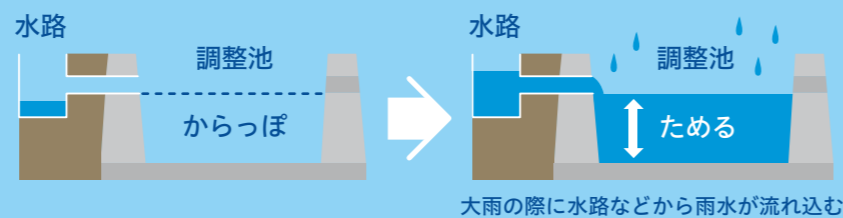
大雨のときには川の水位が上昇し、低い位置にある土地などは雨水を自然に流すことができず、そのままでは水路から水があふれてしまいます。そこで雨水ポンプ場では雨水をポンプでくみ上げて、川へ強制的に流すことで水があふれることを防ぎます。

## File 3 調整池の整備でためる対策

調整池とは水が地面に浸透しにくい都市部に降った雨水を貯める人工の池です。より多くの雨水をためるために、普段はからっぽの状態です。大雨の際には調整池で一時的に雨水をためることで、水路に流れる雨水の量を抑え、水害リスクを低減します。



写真：日岡山学校給食センター調整池



File

## 1 雨水幹線の整備でながす対策

そもそも雨水幹線って？...

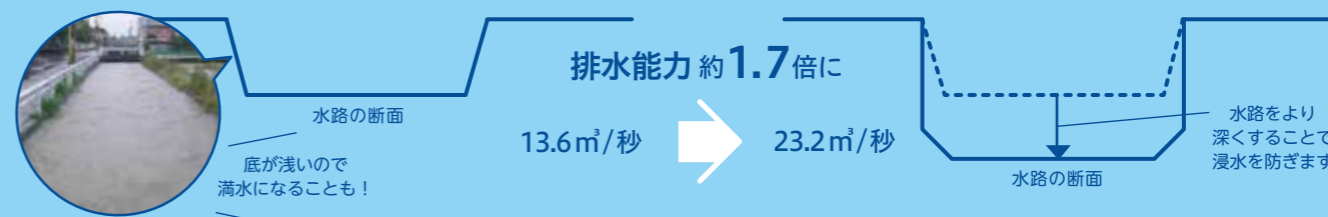
市街地に降った雨水を、速やかに川や海へ「ながす」ための主要な水路や地中内に設置されている管のことです。



施工前



施工後



既存水路の断面積を大きくし流せる雨水の量を増やす工事を行うことで、周辺の浸水被害を軽減します。過去に浸水被害が発生した区域を優先的に工事しています。

### ▶ 雨水幹線を整備するには…

水が流れている中での工事のため時間がかかります。また、幅の広い水路が主となるため工事の規模が大きくなり工事費も高くなる傾向にあります。上記写真の工事では年間工事距離120mほど、約2億円の工事費がかかっていますが、近隣への影響軽減や通行規制の短縮を図りつつ、最も経済性の優れた工法を採用し工事に取り組んでいます。

▼別府川5-7号雨水幹線の場合

1年間の工事距離

約120m

1年間の工事費用

約2億円

## コラム Column

### わが家でためる対策(雨水貯留タンク)

ご家庭でもできる対策として、雨水貯留タンクを設置して雨水をためることで、側溝や水路に流れる雨水の量を減らすことができます。ためた雨水は花や植木の水やりなどに活用できます。設置費用は助成を受けられるので、詳しくは裏面をご確認ください。



雨水貯留タンク

